

# 「最後の絶望」

～元に戻るな～

ヨハネ21：1～11

今日の聖書箇所は十字架の後、ペテロをはじめ弟子たちは元の生活に戻っていったことが書かれています。またペテロは元漁師でしたので船に乗り、網をつかって漁師をしている姿が描かれています。そしてこの場所というのはイエス様がペテロを弟子に召命された時にも訪れていた場所でした。その時も夜通し漁をしていましたが、まったく取れませんでした。そんなペテロと一緒に船を沖へ出させ、民衆に向かってお話をした後、反対側に網を下すように命じました。そうしたら転覆しそうになるくらいに大量の魚が網にかかったのです。その時ペテロはイエスの前にへりくだり、「私から離れてください」といいました。そんなペテロにイエスは「あなたは人間をとる漁師にしてあげよう」と言われました。その言葉を信じてペテロは何もかも捨ててはたがっていきました。しかしイエスと一緒に歩んでいる中でペテロは失敗の連続でした。やってはいけないことをし、言うてはいけないことをして叱られたり、弟子の中で誰が一番偉いのか、一番愛されているのか・・・を競ったりしてきました。最後の最後、ペテロは十字架の前に捕えられたイエスを前にして3度も裏切るようなことをしました。その後ペテロは涙を流している中で、自分に絶望をしたのではないかと思えます。だからこそ、十字架の後、湖のほとりから船の反対側に網を下しなさいと言われた時は素直に下しています。特に12弟子たちはイエスと一緒にいた時は自らの考え方やプライドがあったように感じます。しかし本当の絶望を経験したとき、自分の価値観が崩れていき、正しい道を歩めるようになっていきます。だからこそ復活のイエスキリストに出会った時、ペテロは何も言葉を発することができませんでした。そしてイエスキリストから3度私を愛するのか？と尋ねられもう一度召命を受け、自らの人生を再確認しました。それからのペテロの歩みは全くの別人でした。そして最後は殉教をしたのではないかと言いつづけています。

## ■ ①失敗の意味～自分の無力を知る～

私たちも同じです。やってはいけないことは分かっている・・・けれどもしてしまいます。でも私たちはその間違いや失敗を指摘されることも嫌いです。たしかに自分が変化するときというのは失敗した時ではないかと思えます。私たちはうまく行っている時は段々と高ぶりが出てきて、人を見下し、欲に従う歩みをしていく傾向があります。そうなっていくと私たちに語られる忠告の言葉というのは敵意でしかなくなるのです。しかし失敗を通して自分の無力さを痛感した時に自分の内側が変化をして素直に周りの言葉が聞けたり、自分を変えたりすることができるようになっていきます。ピンチはチャンス！や、失敗から学べ！という言葉は日常で多く使われていると思います。これを実践している人がはたしているのでしょうか。私たちはこのどちらかを選んで生活しているのです。私たちは素直に自分の無力さを受け入れていきましょう。バロメーターは「指摘された時に腹が立つのか？そうでもないのか」ということです。これができた時、私たちは本当の変化をします。すなわち「自分の力で生きていけない」ということになるのです。これが失敗の意味です。私たちは偽りの自分が生きている以上失敗を繰り返してしまいます。そこで本来神様が造られた自分によって決断していくことを望んでいるのです。「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きている

のは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。(ガラテヤ2：20)」

## ■ ②本当の自分を知るところまで！！ 自信から自知愛！！

ですから本当の自分を知るところまで絶望を感じなければならぬのです。神様が造られた私たちは完璧でした。しかし私たちが成長する中で、私たちと関わった人からの影響によって歪んでしまったり、悪くなってしまうたり、本来の姿ではない偽りの自分になってしまいました。その上に人はお互いに傷つけ合いながら年を重ねてくるので私たちは神様が造られた姿を知る事ができなくなってきました。しかし今日の伝えているのは自分を知らなさいという事なのです。人によって造られた偽りの自分と決別するために、知る必要があります。私たちは自分のしている行動を注意深く見守り分別しないと行けないのです。理解しないとその行動を止めることができません。そして行動が理解できないと決別することもできません。その両面を知らなければ先に進むことができないのです。私たちはどのようにして知ることができるのでしょうか。それは失敗することを通して、周りからの指摘などによるものが大きいのです。私たちはその声に耳を傾けていきましょう。

## ■ ③新しい方法～元に戻るな！！

私たちは知る、理解することができれば、その都度どちらかを選びながら歩いていきます。正しい道か、今まで通りの道を歩いていくのかということ。ペテロはイエスキリストに網を反対側に下してみなさいと語られた時、“ぶつぶつ”言わずに下しました。それは自分が“ぶつぶつ”言ってしまう癖、性質、感情的な態度・・・を理解し、止める決断をしたからこそ、何も言わずに網を下せたのでした。私たちは神さまによって造られた姿は完璧でした。そして私たち自身は神様の目から見たら高価で尊いとして下さっているのですが、ほんの一部分に弱さがあり、その弱さが露呈した時にマイナスな影響を周りに与えてしまうのです。大きな船であっても楫はそれほど大きくはありません。私たちの行動というものはほんの小さくでも、周りには大きな影響を与えてしまうことがあります。ですから私たちの新しい方法を選び続け、今まで通りの行動をしないように気を付けていきたいと思えます。

## まとめ

私たちは自分を知るところまで切にしていかなければならないのです。特に自分の弱さを知ることがもっとも大切なことです。私たちは失敗、指摘されることを通して、自分の弱さや罪を知ることができます。だからこそ、失敗や指摘された中から自分の罪を認識しましょう。そうすればその分野については最後の絶望となり、罪の赦しを受け、新しい決断の元、新しい方法で歩むことができます。その道はなんと希望や恵みに満ちているのでしょうか。神さまが用意して下さっている恵みを受け取り続けるために自分と向き合ってください。

(要約者：平澤 一浩)

(4月24日)